

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270500248		
法人名	有限会社 中島介護サービスセンター		
事業所名	グループホーム すまいる(2階)		
所在地	静岡県熱海市福道町3番3号		
自己評価作成日	平成25年11月30日	評価結果市町村受理日	平成26年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2012_022_kami=true&jiyosvoCd=2270500248-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成25年12月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成16年6月開所から10年がたとうとしています。今までのマニュアル等の見直しなど原点にもどりサービスの見直しをはかっていきたい。管理者・各委員会担当者の交代もあり、新生すまいるをつくってきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

熱海駅から車で5分、来宮駅から徒歩1分と交通の便に恵まれ、市役所や警察署をはじめ主要な公共施設が林立するなか、鉄筋4階建ての事業所があります。外観は周囲の街並みに溶け込み無機質ですが、2階と3階の2ユニットの空間は温度調整がこまめに行われ、温かみのあるしつらえがみられます。玄関入口にはこれから利用者と職員で植えるのであろうパンジーの苗がたくさん並び、日頃の取組みの豊かさが伝わります。本年11月に管理者が交替し、新たなリーダーは相談員の経験もある一方で、此処では新人であるとの謙虚さも持ち合わせ、自らの視点で今後の課題を掴み、ビジョンを整えつつあることに頼もしさを感じました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域での安心な暮らしを支援していくサービスを職員で確認し、「一緒に楽しく笑顔で」の理念にもとずいて継続できるようにしている。	唱和はおこなっていませんが、月例会議で理念に基づいた代表者からの話があり、意識確認の機会が定期的にあります。普段の業務では自然体ですが、月1回の行事では「楽しんでほしい」と努めている職員の姿がみられます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の職員が多く、行事の参加は順番にまわっている。観光地なのでイベントも多く楽しんでいます。施設等ボランティア活動をしている職員がいるため、一緒に参加して交流している。	つい最近も伊豆山に出向き、身体障がい者の作業所の皆さんとクリスマス会を楽しみました。職員の演奏ボランティアからの縁が膨らんだもので、大切な地域の仲間となっています。中学生の職業体験の受入にも応じています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議開催月に民生委員・町内会長・組長さんに行事報告をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回議事録の確認、検討事項の報告、現在取り組んでいる内容についても報告し意見をもらうようにしている。本人も一緒に参加していただき意見をもらっている。	年3～4回の開催を目標に、近くの和菓子店からおやつを取り寄せ、和気藹々とした雰囲気をもって運営しています。ユニットから1名ずつ持ち回りで、利用者とその家族とのペア参加があり、議事録からは丁寧に本件に取り組んでいることが視えました。	現在のままでも内容は十分充実していますが、開催回数を増やす工夫について、あらためて検討を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と電話連絡や行き来する機会は多く、情報交換や相談等を逐次行っている。充分連携とれている。	運営推進会議の案内が2週間前の場合でも快く調整くださり、熱海市担当者の柔軟な対応に事業所は助けられています。前回の会議では「QOL向上」の講話があったことも書面で視認しました。熱海市の連絡協議会にも参加し、ヨコの連携にも努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に鍵はかけず、自由に入出りできるようにしている。職員の見守り方法の徹底を継続できるように意識している。職員の共有認識を話し合いの場で確認している。身体拘束はありません。	夜間のみ玄関は防犯上施錠しています。各ユニットのドアは24時間開放していて、踊り場にはミニ図書館もあります。標準的には3名のところ4～4.5名の潤沢な配置で、食事以外にも1時間の休憩が設定され、ストレスケアにも配慮しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議などで、虐待防止に関する理解浸透に勤めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護・後見人制度は、管理者が対応している。研修を通して、職員に学んでもらい活用できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、時間を充分にとり、料金・重度化した場合における対応・看取りに関する指針(医療連携)・ケアに関する考え方取り組み、について説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族には、いいこと悪いことなんでもいってもらえるような雰囲気づくりをとっています。出された意見・要望は、ミーティングで提供してケアに活かしている。	家族は面会も多くあり、また運営推進会議にも協力的です。バーベキューで納涼会といった行事にも家族の顔がみられ、また行事写真を家族に届けていて、訪問の少ない家族も年1回は事業所に足を運んでもらえるよう工夫に取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、個々に話し合う機会を作り、問いかけ聞き出している。又ミーティングでも意見や要望を聞いている。	1日2回の申し送りと毎月の会議において情報交換をおこなっています。リスク、環境、食事、広報…と、9つの分野に渡り委員会が設置され、各委員会からの発表として議題に挙がることで、大勢の場で発言しにくい人にも言い易い環境が用意されています。	リーダーの交替があったこともあり、あらためて個人面談をおこなうことを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、職場内で活かせる環境づくりに勤めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には、職員が順番に受講できるように調整し、研修後伝達している。研修報告閲覧等も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の連絡協議会に所属し、地域での研修・意見交換の場として出席している。外部への活動は職員を順番に随時出席させている。又、介護保険更新申請による調査や入所までの面接等一緒に行い同業者と交流する機会をつくる		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや不安を受け止め、安心していただけるように時間をかけて接し通所利用や食事等で関係づくりをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人との関係・苦勞・今までのサービス状況・生活状態を聞き、要望を聞き対応を一緒に考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	柔軟に対応している。本人や家族の思いを聞き必要ならば、他事業所・地域包括センター等連絡しサービスにつながるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに協働しながら穏やかな生活がおくれるように場面づくりや声かけをしている。利用者から教えていただいたり、励まされたりの関係ができています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子等を職員と家族が話し、全体の様子は、管理者が関わり思いを代弁したりしながら一緒に支えるために考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らしている友人や知人に遊びにきてもらったり、行きつけの理美容院やレストランにいったり交流が途切れないように努めている。	行きつけの理髪店に職員が付き添ったり、馴染みの場所に家族が連れ出していて、個々の要望に応じています。朝夕刊を玄関ポストまで取りに行くことを習慣とし、新聞を読むほかの利用者に感謝されている人もいます。法事や正月で帰宅する利用者もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役になっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談にのったり、遊びにきていただけるようお誘いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で声をかけ、何をしたいか、本人の思いを把握できるようにそれぞれが意見を出し合い話し合うようにしている。家族の意見も聞き検討している。	毎月の誕生日会のほか、紅葉を壁に貼りめぐらした『紅葉の集いの会』等の季節行事をアクティビティ委員会が年20余開催しています。非日常の多彩なアプローチからの反応を意向として掴み、毎日の関わりに反映させています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新規利用者には、家族よりセンター方式の用紙にわかる事柄を思い出し書き込んでいただいています。又、本人の記憶から情報を引き出し、家族・知人に聞きながら把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりの生活リズムは、聞いていたより、実際ホームに馴染んでからでできます。毎月ケア会議で、職員と総合的に意見交換をして情報を共有し、利用者の全体像を確認しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が、自分らしく暮らせるよう本人・家族の訴え・要望を聴き、調整できることは、すばやく対応できるように日々のケアの中で、話し合い定期的に介護計画を作成しています。申し送りや日報で全体に把握できるようにしている。又会議で確認しあっている。	全体会議とケース記録に全職員が関わり、申し送りで日々の現状確認をしつつ、実際の作成は計画作成担当者がおこなっています。朝夕の申し送りで気づきを伝達するとともにプランが不具合であれば現実とすり合わせています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや状態変化は、個々の記録に記載し、口頭で申し送りを情報共有を徹底しています。計画の見直しが必要な場合は、会議で確認をとっている。記録の書き方、用紙等検討し大きく変更している。月単位・毎日単位・半月単位でわかるように工夫している。又申し送りについても指導している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者家族の状況に応じて、事業所内外で調整し通院や送迎を行っている。図書館利用や買い物など散歩・リハビリしながら行っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の資源をできるだけ使っています。消防・警察・図書館・生涯学習・ボランティア等協力していただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医・専門医での医療は継続して受診している。基本的に定期受診は、家族対応となっているが、不可能な時には、調整代行しています。自費になる為契約時に説明し、同意を得ている。	眼科といった専門医はそれぞれ好みのところを利用していますが、すべて協力医に変更しており、訪問診療が月2回あります。ほかに歯科医師が隔週、月1回歯科衛生士と定期訪問があり、歯の健康管理にも余念がありません。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと医療連携として、最低週1回の訪問を実施、入居者の健康状態の共有を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、家族等とも協働しながら、医療機関のソーシャルワーカーとの連絡を行い、面会に行き、状況を医師や看護師に定期的に話をしながら、早期退院支援をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化があるごとに、家族・医師・看護師を交えて話し合いをしている。(本人の思いも聞いている)診療所に順番に診察を含めてカンファレンス開催し、終末期の方針について、本人・家族の意向を確認している。	開設から10年、年月を重ねての看取り経験は豊富にあります。協力医の24時間対応も心強く、医療連携加算もとっています。経験をさらに現場に活かすためにも、今後は職員が専門的な研修へ参加するよう段取りしていく考えです。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が急変や応急手当ができるよう定期的に勉強会を実施し、体験・習得できるように看護師や消防士に協力していただいている。又救命講習に職員全員が受講するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力により、年2回の避難訓練を総合訓練している。	徒歩5分に消防署があり、速やかな支援がもらえる恵まれた環境にあります。訓練は防災委員会を中心に、例えば車椅子の場合の避難方法といった具体的なメニューを取り入れ、実施しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議等で話しあっているが、全職員の徹底が必要である。今後、利用者に発する声かけや語調が適切であるか、それぞれ職員チーム間で注意しあい話し合いができるようにしていきたい。	開設以来男性職員が少ない状況にあったためか、女性介助が自然となっていますが、希望があれば同性介助にも対応しています。呼び方は画一的に決めることはせず、本人の反応や、家族意見をj得て判断しますが、TPOにも配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が納得できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れはあるが、できるかぎり個別対応できるように調整し柔軟に対応している。(買い物・散歩・理美容等)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事や外出には、女性は、化粧したりそれぞれ洋服選びをして楽しんでます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物・準備・配膳・片付けを利用者と一緒に行っています。(調理は、職員)食事は、職員も同じ物を一緒に食べています。食事に関わる家事は、声かけしお手伝いしていただいています。	丸いテーブルを仲良しで囲み、他愛もない会話をもちながら、和やかな時間が流れる食事風景です。揚げたてのコロッケ、野菜たっぷりの炊き込みご飯とけんちん汁、手作りの家庭的なメニューに「お腹がいっぱい」と、どの利用者も満足そうな笑みを浮かべていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は記録に残し職員が全員分かるように申し送りしている。水分摂取量は、24時間単位で記録をとり情報を共有している。毎月の体重測定を管理、主治医からの指示のある利用者は、血液検査で状態を診ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、週1回歯科衛生士訪問と専門的アドバイスをいただいて実施している。毎食後の歯磨きは、習慣になっており感染・誤嚥・肺炎予防につながっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	在宅では、リハビリパンツ使用していた利用者も、排泄パターンの把握と誘導で、トイレでの排泄ができています。便秘にならないよう排泄チェックは、徹底している。	各ユニットにトイレは3つ設置されています。必要に応じてパッドを付加するにしても布パンツを常に使えるようにと、また極カトイレでと取り組んでいます。ベテランの醍醐味で、利用者のしぐさや癖から速やかにトイレ誘導をおこなっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつの工夫は、開設時から取り組んでいる。自然排便できるようにコントロールできている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を決めて、入っていない、入りたくないという事のないように声かけ習慣にし、清潔にしている。自分で確認したり個々に午前・午後の時間を希望により行っている。	2日ないし3日をめやすに時間帯を設けず、希望に応じています。入浴中湯水は循環の意味で出し続けています。現在入れ替えて欲しいとの要望はありません。昨年度の課題であった脱衣所の5Sについては環境改善に取り組んでおり、清潔度が高まっていました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝に向けてのリズムは、安定してきている。日中の活動を促し1日の生活リズムを調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の疾病に関する勉強会、薬についての説明をしている。服薬による状態変化は、協力医療機関と連携を図れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞・広告・雑誌を読み利用者が参加したいサークルや行事を話し外出できるよう調整している。できそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出支援は、定期的に利用者室員に行えるようにしている。ランチタイムを外で楽しんだりみんなで話し合い行えるようにしている。お花を見にいたり、知り合いの店でお饅頭を買い、ドライブしながらきれいな景色(富士山・山・海)をみて外の空気を吸い、風を感じていただいています	散歩はその日の天気や気分です少人数で出掛けしており、玄関駐車場や4階を利用した外気浴もあります。外出では季節を感じてもらうことを大切にしています。特にお花見ドライブはアクティビティ委員会が年間計画のなかに位置づけ、恒例外出として確立しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で所有している利用者もいますが、基本的に事務所で預かり外出の時個々にもって出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話でのやりとりは、希望に応じて自由に行えるようにしている。家族・知人からの電話も必ず本人を通して。耳が遠く聞こえない利用者には、手紙を書いてもらい郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースでは、季節に応じて工夫をしている。	「(職員と)一緒に作ったのよ」と利用者が自慢気に指差す方向にはクリスマスのデコレーションがあり、また利用者が自発的にリレーションをとる様子から、日々の充実した暮らしがみてとれます。各階の階段窓が開けられ、換気への配慮もあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に思い思いに過ごせるようになっていきます。読書したり歩いてみたりお茶のみ話したり窓から外を眺めたり、部屋で横になったり等		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれ利用者の部屋は、個性豊かになっています。家族の協力のもと工夫がいかされています。定期的な会議や委員会で確認し、状況に応じて配置換えしている	シーツは交換表に記載し、清潔保持に取り組んでいますが、家族が頻繁に訪れ交換する人もいます。娘がカレンダーを届けてくれたと喜んでいたり、趣味だった仏像彫りができていた頃を懐かしむように小さな像をいくつも並べている人もいました。ベッドが大半のなか、蒲団を好み継続している利用者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員間での意見交換をし、環境整備に取り組み改善できるよう心掛けている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270500248		
法人名	有限会社 中島介護サービスセンター		
事業所名	グループホーム すまいる (3階)		
所在地	静岡県熱海市福道町3番3号		
自己評価作成日	平成25年11月30日	評価結果市町村受理日	平成26年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先: x.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=227

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成25年12月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成16年6月開所から10年がたとうとしています。今までのマニュアル等の見直しなど原点にもどりサービスの見直しをはかっていきたい。管理者・各委員会担当者の交代もあり、新生すまいるをつくってきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

熱海駅から車で5分、来宮駅から徒歩1分と交通の便に恵まれ、市役所や警察署をはじめ主要な公共施設が林立するなか、鉄筋4階建ての事業所があります。外観は周囲の街並みに溶け込み無機質ですが、2階と3階の2ユニットの空間は温度調整がこまめに行われ、温かみのあるしつらえがみられます。玄関入口にはこれから利用者と職員で植えるのであろうパンジーの苗がたくさん並び、日頃の取組みの豊かさが伝わります。本年11月に管理者が交替し、新たなリーダーは相談員の経験もある一方で、此処では新人であるとの謙虚さも持ち合わせ、自らの視点で今後の課題を掴み、ビジョンを整えつつあることに頼もしさを感じました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域での安心な暮らしを支援していくサービスを職員で確認し、「一緒に楽しく笑顔で」の理念にもとずいて継続できるようにしている。	唱和はおこなっていませんが、月例会議で理念に基づいた代表者からの話があり、意識確認の機会が定期的にあります。普段の業務では自然体ですが、月1回の行事では「楽しんでほしい」と努めている職員の姿がみられます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地元の職員が多く、行事の参加は順番にまわっている。観光地なのでイベントも多く楽しんでいます。施設等ボランティア活動をしている職員がいるため、一緒に参加して交流している。	つい最近も伊豆山に出向き、身体障がい者の作業所の皆さんとクリスマス会を楽しみました。職員の演奏ボランティアからの縁が膨らんだもので、大切な地域の仲間となっています。中学生の職業体験の受入にも応じています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議開催月に民生委員・町内会長・組長さんに行事報告をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回議事録の確認、検討事項の報告、現在取り組んでいる内容についても報告し意見をもらうようにしている。本人も一緒に参加していただき意見をもらっている。	年3~4回の開催を目標に、近くの和菓子店からおやつを取り寄せ、和気藹々とした雰囲気をもって運営しています。ユニットから1名ずつ持ち回りで、利用者とその家族とのペア参加があり、議事録からは丁寧に本件に取り組んでいることが視えました。	現在のままでも内容は十分充実していますが、開催回数を増やす工夫について、あらためて検討を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と電話連絡や行き来する機会は多く、情報交換や相談等を逐次行っている。充分連携とれている。	運営推進会議の案内が2週間前の場合でも快く調整くださり、熱海市担当者の柔軟な対応に事業所は助けられています。前回の会議では「QOL向上」の講話があったことも書面で視認しました。熱海市の連絡協議会にも参加し、ヨコの連携にも努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に鍵はかけず、自由に入出りできるようにしている。職員の見守り方法の徹底を継続できるように意識している。職員の共有認識を話し合いの場で確認している。身体拘束はありません。	夜間のみ玄関は防犯上施錠しています。各ユニットのドアは24時間開放していて、踊り場にはミニ図書館もあります。標準的には3名のところ4~4.5名の潤沢な配置で、食事以外にも1時間の休憩が設定され、ストレスケアにも配慮しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議などで、虐待防止に関する理解浸透に勤めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護・後見人制度は、管理者が対応している。研修を通して、職員に学んでもらい活用できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、時間を充分にとり、料金・重度化した場合における対応・看取りに関する指針(医療連携)・ケアに関する考え方取り組み、について説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族には、いいこと悪いことなんでもいってもらえるような雰囲気づくりをとっています。出された意見・要望は、ミーティングで提供してケアに活かしている。	家族は面会も多くあり、また運営推進会議にも協力的です。バーベキューで納涼会といった行事にも家族の顔がみられ、また行事写真を家族に届けていて、訪問の少ない家族も年1回は事業所に足を運んでもらえるよう工夫に取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、個々に話し合う機会を作り、問いかけ聞き出している。又ミーティングでも意見や要望を聞いている。	1日2回の申し送りと毎月の会議において情報交換をおこなっています。リスク、環境、食事、広報…と、9つの分野に渡り委員会が設置され、各委員会からの発表として議題に挙がることで、大勢の場で発言しにくい人にも言い易い環境が用意されています。	リーダーの交替があったこともあり、あらためて個人面談をおこなうことを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、職場内で活かせる環境づくりに勤めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には、職員が順番に受講できるように調整し、研修後伝達している。研修報告閲覧等も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の連絡協議会に所属し、地域での研修・意見交換の場として出席している。外部への活動は職員を順番に随時出席させている。又、介護保険更新申請による調査や入所までの面接等一緒に行い同業者と交流する機会をつくる		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや不安を受け止め、安心していただけるように時間をかけて接し通所利用や食事等で関係づくりをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人との関係・苦勞・今までのサービス状況・生活状態を聞き、要望を聞き対応を一緒に考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	柔軟に対応している。本人や家族の思いを聞き必要ならば、他事業所・地域包括センター等連絡しサービスにつながるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに協働しながら穏やかな生活がおくれるように場面づくりや声かけをしている。利用者から教えていただいたり、励まされたりの関係ができています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子等を職員と家族が話し、全体の様子は、管理者が関わり思いを代弁したりしながら一緒に支えるために考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らしている友人や知人に遊びにきてもらったり、行きつけの理美容院やレストランにいったり交流が途切れないように努めている。	行きつけの理髪店に職員が付き添ったり、馴染みの場所に家族が連れ出していて、個々の要望に応じています。朝夕刊を玄関ポストまで取りに行くことを習慣とし、新聞を読むほかの利用者に感謝されている人もいます。法事や正月で帰宅する利用者もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役になっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談にのったり、遊びにきていただけるようお誘いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で声をかけ、何をしたいか、本人の思いを把握できるようにそれぞれが意見を出し合い話し合うようにしている。家族の意見も聞き検討している。	毎月の誕生日会のほか、紅葉を壁に貼りめぐらした『紅葉の集いの会』等の季節行事をアクティビティ委員会が年20余開催しています。非日常の多彩なアプローチからの反応を意向として掴み、毎日の関わりに反映させています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新規利用者には、家族よりセンター方式の用紙にわかる事柄を思い出し書き込んでいただいています。又、本人の記憶から情報を引き出し、家族・知人に聞きながら把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりの生活リズムは、聞いていたより、実際ホームに馴染んできてからでできます。毎月ケア会議で、職員と総合的に意見交換をして情報を共有し、利用者の全体像を確認しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が、自分らしく暮らせるよう本人・家族の訴え・要望を聴き、調整できることは、すばやく対応できるように日々のケアの中で、話し合い定期的に介護計画を作成しています。申し送りや日報で全体に把握できるようにしている。又会議で確認しあっている	全体会議とケース記録に全職員が関わり、申し送りで日々の現状確認をしつつ、実際の作成は計画作成担当者がおこなっています。朝夕の申し送りで気づきを伝達するとともにプランが不具合であれば現実とすり合わせています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや状態変化は、個々の記録に記載し、口頭で申し送りを情報共有を徹底しています。計画の見直しが必要な場合は、会議で確認をとっている。記録の書き方、用紙等検討し大きく変更している。月単位・毎日単位・半月単位でわかるように工夫している。又申し送りについても指導している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者家族の状況に応じて、事業所内外で調整し通院や送迎を行っている。図書館利用や買い物など散歩・リハビリしながら行っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の資源をできるだけ使っています。消防・警察・図書館・生涯学習・ボランティア等協力していただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医・専門医での医療は継続して受診している。基本的に定期受診は、家族対応となっているが、不可能な時には、調整代行しています。自費になる為契約時に説明し、同意を得ている。	眼科といった専門医はそれぞれ好みのところを利用していますが、すべて協力医に変更しており、訪問診療が月2回あります。ほかに歯科医師が隔週、月1回歯科衛生士と定期訪問があり、歯の健康管理にも余念がありません。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと医療連携として、最低週1回の訪問を実施、入居者の健康状態の共有を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、家族等とも協働しながら、医療機関のソーシャルワーカーとの連絡を行い、面会に行き、状況を医師や看護師に定期的に話をしながら、早期退院支援をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化があるごとに、家族・医師・看護師を交えて話し合いをしている。(本人の思いも聞いている)診療所に順番に診察を含めてカンファレンス開催し、終末期の方針について、本人・家族の意向を確認している。	開設から10年、年月を重ねての看取り経験は豊富にあります。協力医の24時間対応も心強く、医療連携加算もとっています。経験をさらに現場に活かすためにも、今後は職員が専門的な研修へ参加するよう段取りしていく考えです。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が急変や応急手当ができるよう定期的に勉強会を実施し、体験・習得できるように看護師や消防士に協力していただいている。又救命講習に職員全員が受講するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力により、年2回の避難訓練を総合訓練している。	徒歩5分に消防署があり、速やかな支援がもらえる恵まれた環境にあります。訓練は防災委員会を中心に、例えば車椅子の場合の避難方法といった具体的なメニューを取り入れ、実施しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議等で話しあっているが、全職員の徹底が必要である。今後、利用者に発する声かけや語調が適切であるか、それぞれ職員チーム間で注意しあい話し合いができるようにしていきたい。	開設以来男性職員が少ない状況にあったためか、女性介助が自然となっていますが、希望があれば同性介助にも対応しています。呼び方は画一的に決めることはせず、本人の反応や、家族意見をj得て判断しますが、TPOにも配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が納得できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れはあるが、できるかぎり個別対応できるように調整し柔軟に対応している。(買い物・散歩・理美容等)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事や外出には、女性は、化粧したりそれぞれ洋服選びをして楽しんでます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物・準備・配膳・片付けを利用者と一緒に行っています。(調理は、職員)食事は、職員も同じ物を一緒に食べています。食事に関わる家事は、声かけしお手伝いしていただいています。	丸いテーブルを仲良しで囲み、他愛もない会話をもちながら、和やかな時間が流れる食事風景です。揚げたてのコロッケ、野菜たっぷりの炊き込みご飯とけんちん汁、手作りの家庭的なメニューに「お腹がいっぱい」と、どの利用者も満足そうな笑みを浮かべていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は記録に残し職員が全員分かるように申し送りしている。水分摂取量は、24時間単位で記録をとり情報を共有している。毎月の体重測定を管理、主治医からの指示のある利用者は、血液検査で状態を診ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、週1回歯科衛生士訪問と専門的アドバイスをいただいて実施している。毎食後の歯磨きは、習慣になっており感染・誤嚥・肺炎予防につながっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	在宅では、リハビリパンツ使用していた利用者も、排泄パターンの把握と誘導で、トイレでの排泄ができています。便秘にならないよう排泄チェックは、徹底している。	各ユニットにトイレは3つ設置されています。必要に応じてパッドを付加するにしても布パンツを常に使えるようにと、また極カトイレでと取り組んでいます。ベテランの醍醐味で、利用者のしぐさや癖から速やかにトイレ誘導をおこなっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつの工夫は、開設時から取り組んでいる。自然排便できるようにコントロールできている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を決めて、入っていない、入りたくないという事のないように声かけ習慣にし、清潔にしている。自分で確認したり個々に午前・午後の時間を希望により行っている。	2日ないし3日をめやすに時間帯を設けず、希望に応じています。入浴中湯水は循環の意味で出し続けています。現在入れ替えて欲しいとの要望はありません。昨年度の課題であった脱衣所の5Sについては環境改善に取り組んでおり、清潔度が高まっていました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝に向けてのリズムは、安定してきている。日中の活動を促し1日の生活リズムを調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の疾病に関する勉強会、薬についての説明をしている。服薬による状態変化は、協力医療機関と連携を図れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞・広告・雑誌を読み利用者が参加したいサークルや行事を話し外出できるよう調整している。できそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援は、定期的に利用者室員に行えるようにしている。ランチタイムを外で楽しんだりみんなで話し合い行えるようにしている。お花を見にいたり、知り合いの店でお饅頭を買い、ドライブしながらきれいな景色(富士山・山・海)をみて外の空気を吸い、風を感じていただいています	散歩はその日の天気や気分ですら人数で出掛けしており、玄関駐車場や4階を利用した外気浴もあります。外出では季節を感じてもらうことを大切にしています。特にお花見ドライブはアクティビティ委員会が年間計画のなかに位置づけ、恒例外出として確立しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で所有している利用者もいますが、基本的に事務所で預かり外出の時個々にもって出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話でのやりとりは、希望に応じて自由に行えるようにしている。家族・知人からの電話も必ず本人を通して。耳が遠く聞こえない利用者には、手紙を書いてもらい郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースでは、季節に応じて工夫をしている。	「(職員と)一緒に作ったのよ」と利用者が自慢気に指差す方向にはクリスマスのデコレーションがあり、また利用者が自発的にリレーションをとる様子から、日々の充実した暮らしがみてとれます。各階の階段窓が開けられ、換気への配慮もあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に思い思いに過ごせるようになっていきます。読書したり歩いてみたりお茶のみ話したり窓から外を眺めたり、部屋で横になったり等		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれ利用者の部屋は、個性豊かになっています。家族の協力のもと工夫がいかされています。定期的な会議や委員会で確認し、状況に応じて配置換えしている	シーツは交換表に記載し、清潔保持に取り組んでいますが、家族が頻繁に訪れ交換する人もいます。娘がカレンダーを届けてくれたと喜んでいたり、趣味だった仏像彫りができていた頃を懐かしむように小さな像をいくつも並べている人もいました。ベッドが大半のなか、蒲団を好み継続している利用者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員間での意見交換をし、環境整備に取り組む改善できるよう心掛けている。		